月　日 名前　　／100点

【答え】

# 【中3】国語 文章問題　物語文 4

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

卒業アルバムの写真撮影の日、私はクラスの集合写真のいちばん端に立った。真ん中に立つのは、いつも同じ顔ぶれだった。明るくて、よく笑う、クラスの中心の人たちだ。

「端っこ、もうちょっと寄って。」

カメラマンに言われて、私は半歩だけ内側に動いた。隣にいたのは、あまり話したことのない中村さんだった。

中村さんも、私と同じように、いつも静かに本を読んでいる人だった。

撮影が終わってから、私は中村さんに話しかけてみた。三年間、同じクラスだったのに、話したのはそれがほとんどはじめてだった。

「いつも、何の本を読んでるの。」

中村さんは少し驚いた顔をして、かばんから一冊の本を出した。私の好きな作家の本だった。私たちは、その作家のどの作品が好きかで、休み時間が終わるまで話しこんだ。中村さんは、話すとよく笑う人だった。

その日から卒業までの一か月、私たちは毎日のように本の話をした。本を貸し合い、感想をノートに書いて交換した。

卒業式の前の日、できあがったアルバムが配られた。集合写真の端に、少しかたい顔で並ぶ私と中村さんが写っていた。まだ話したことのなかった、あの日の二人だ。

「もっと早く話しかければよかったね。」中村さんが言った。

私はうなずきかけて、それから首を振った。

「でも、この写真を撮った日に話しかけたから、今があるんだよ。」

写真の中の二人は、まだおたがいのことを何も知らない顔をしている。私は、その端っこの写真が、アルバムの中でいちばん好きになった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　撮影の日、私は集合写真のどこに立ちましたか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

いちばん端

問二　「中村さんは、話すとよく笑う人だった」とありますが、この一文から分かることとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　中村さんは、静かに見えて、実は明るく親しみやすい人だったということ。

イ　中村さんは、私のことをばかにしていたということ。

ウ　中村さんは、クラスの中心の人たちと仲がよかったということ。

エ　中村さんは、本を読むのが好きではなかったということ。

ア

問三　私と中村さんが、卒業までの一か月にしたことを、本文中から二十五字以内で抜き出しなさい。

本を貸し合い、感想をノートに書いて交換した

問四　「もっと早く話しかければよかったね」という中村さんの言葉に対して、私が首を振ったのはなぜですか。六十字以内で説明しなさい。

後悔するよりも、写真を撮ったあの日に話しかけたからこそ今の二人の関係があるのだと、あの日を大切に思っているから。

問五　私がその端っこの写真を「いちばん好きになった」理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選びなさい。

ア　自分がいちばんきれいに写っている写真だから。

イ　中村さんと友だちになるきっかけの日の写真で、二人の関係の始まりが写っているから。

ウ　クラスの中心の人たちが、よく写っている写真だから。

エ　中村さんとの思い出を、早く忘れたいから。

イ

# 【中3】国語 文章問題　物語文 4　答えと解説

問一（二十点）　答え：いちばん端

解説：第一段落が根拠。真ん中に立つ「クラスの中心の人たち」と対比されている。

問二（二十点）　答え：ア

解説：第三段落の「いつも静かに本を読んでいる人」と比べて読む。話してみて初めて分かった一面を表している。

問三（二十点）　答え：本を貸し合い、感想をノートに書いて交換した

解説：第七段落が根拠。「毎日のように本の話をした」に続けて、具体的にしたことが書かれている。

問四（二十点）　答えの例：後悔するよりも、写真を撮ったあの日に話しかけたからこそ今の二人の関係があるのだと、あの日を大切に思っているから。

解説：私の言葉「でも、この写真を撮った日に話しかけたから、今があるんだよ」が根拠。「うなずきかけて」とあるので、早く話せばよかったという気持ちも少しはあったが、それより今を大切にしたいという思いが勝っている。

採点のポイント：① あの日に話しかけたから、今の関係がある　② 後悔よりも、あの日を大切に思っている（二つそろって満点、一つなら半分）

問五（二十点）　答え：イ

解説：「まだおたがいのことを何も知らない顔をしている」が根拠。その日に話しかけたから今がある、という私の言葉とつながっている。